

日本女子大学
会誌

復刊【第3号】

1959年



世界の本舞台に

女医もはなはなしい活躍の時代

理事 福田 幹子

今回は本欄において、本会对する希望、抱負等を述べていただくように各支部長さんへお願いをいたしました。私も亦本部においてのいろ／＼のことを述べさせていただきます。と思います。

本部においては昨年より支部結成に力を入れておりましたが、皆様の御支援の効があらわれて、支部は殆んど結成されました。国際女医会へも入会いたしました。これからは私共女医が世界の檜舞台に出て、はなはなしい役を演じる時代に到達したのであります。かゝる時私共は私共の中から人前で物のいえる人、思想思想が現代に即応している人、即ち良識の持主を安心して、我々の代表として広き世間に出さなくてはならない時機が到達したのであります。

かゝる折私共の同僚山本すぎ女史こそはその適任者であろうと思ひ、日本女医会有志が後援会を設置いたしましたことはすでに皆様御承知下さつておるものと思ひます。ただ後援会を設置したのみ申上げたのでは、くわしいことはおわかりにならないと思ひますが、まず後援会を設置した旨の手紙を各位のところへ発送いたしました。日本医師会、東京都医師会へ交渉して参議院議員への推薦方をたのみました。同時に県支部長に宛て、「ケンインレンメイヘヤマモトスギスイセンカタタノム」の同文電報を打ちました。これは各地元からの推薦があれば各支部においての力の入れかたがちがつてくるだろうと思ふからなのでした。そうして会員の一人一人が自分が推薦して出すのだとの認識を持つて貰いたいのであります。若し一人からでも「私はそんなことには関与しませんよ」などの発言をきくようなことがありましたら、それがどれだけのマイナスを生むことになりませうか、この際こういうことも世間通念として考えねばならないことだと思ふのであります。マイナスということは家の経済における黒字、赤字に匹敵すると思ひます。赤字というものはほんのすこしで

も、それが来月ともなれば、必ず倍になりやがては経済の破綻を来します。それと同様何事にもマイナスは大禁物です。さて、昨五月七日は参議院議員の立候補の受付日で、方々で候補者の選挙事務所が開かれました。私も山本女史の開所式に連なりました。自民党の公認候補のためなのでしょう、岸総理（これは令嬢が代理として来られた）赤城官房長官、福田幹事長等政党の大御所、又遠くは高知県、宮城県等からこの式に馳せ参ずる人々もあり、何人も女史の徳をたゞえ大いに後援することを誓われました。この有様を見てかくも各方面からの支持者があるのだから我々女医も大いに力を入れなくてはとその決心のほどをかためました。

日本女医会の代表としては大村ひさえ女史が一言挨拶をされました。山本女史は自分は十二年前に夫に死別し、又子女達は成人して一本立になつた故に家庭というものはすでに卒業している。又小児科医としても長年暮して来ました。私は過去四十年の経験を生かして、このさきはわが国家の医療保障問題、母と子の問題等に一心を打ちこんで広く世の母達の、子供達の幸福ということに向つて進みたいとの抱負を述べられた。そうしてその座から直ちに市内遊説に出向かれた。健康であり、総明であり、誠実であるこの同僚を何としても議政壇上に送らねばとの心をしてその遊説カーを見送りました。

本日（八日）は私の居住地（千代田区）を廻るといふので仁尾千枝子女史と私とはこの車に同乗しました。半日でも体が痛くなるのに、これまで又これからさきの健闘を無事に了えられるように切に祈る心になりました。

以上話が山本女史のことになりましたが又本文にかえります。

四月一日は御承知の如く第十五回日本医学会総会が東京において行われた。当地における総会の時天皇陛下下の臨御を仰ぐことになつてゐるそうだけれど、日本は女医の数も世界の第一位にあるのだから本年は皇后陛下にも臨御を仰ぎたいと日本女医人会長吉岡彌生の名で、前以つて宮内庁へ請願したところ、「日本に女医がそんなに居るのですか」との返事をうけた由、しかし目出度く実現はしましたが宮内庁における認識不足もひどいものだと憤慨してみたところからはじまりませんが、世の中はそんなものかもわかりません。

本日も新聞をよんでみると、実践女子大で創立六十年記念として「近代女性文化発達資料展」というのが開催されて、写真、文献、衣装などで明治から現代までの女性の活躍のあとを、わかりやすくたどれるように工夫されており、その資

料や年表などをみると、仲々おもしろくみられたとありました。明治十三年には女性の実業家が現われ、二十三年には電
話交換手と看護婦、二十四年には女優が出たとなっております。これをみますと明治十七年に早くも現われた女医のこと
は出ておりません。三十三年に創立された女医学校のこともあります。こんなにも女医というものは、明治時代には世
間から軽視されていたと思わねばなりません。これはやつぱり女医というものが世事にうすく所謂世間知らずであり、世
間に向つて物を言う人がすくなくないから現にこんな恥かしい目に逢うのではないかと思ひます。この意味においても
世間に出て働ける条件を供えている人は皆んなでござつて世間に出し、又女性文化史の先駆であり、又中心をなすものは
女医史であるということにも、どうぞ皆さまの認識を深めていただきたい。

私はこうして女医の雑誌（本紙のみではない）に筆をとる毎に女医史と声を大にしてきけんでいるのでございま
す。この声をどうぞきいていただきたい。女医史は材料も殆ど揃つてゐるし、編集の方々も立つていますが資金の捻出方
法にゆきづまつています。これもどうぞ皆さんで考えていただきたいのでございます。

又話が外れましたが、日本医学会総会の日は天皇、皇后両陛下の臨御を仰ぎました。婦人席（五百名）は勿論場内立錫の
余地なき迄の出席でありました。君が代吹奏裡に両陛下の臨御あり、天皇陛下より「国民の保健及び医療は、諸君の双肩
にかゝつて居ります。どうぞ今後とも大いにつとめて下さい」とのお言葉を戴いた時は何となく身体がひきしまつて、眼
頭があつく感じるがしました。天皇は今現人神ではない我々と同じ人間におわしますと思つても明治の教育は我々の
時代のものゝ身体中にしみわたつてゐるのだと思ひ、教育というものゝ重大意義を感じました。（三四・五・八）



国際女医会に入会して

・ 副会長 竜 智 恵 子 ・

日本女医会も漸く国際女医
会に会費を納めて正式に会員
となつた。会費を送るだけ
も大変な仕事だという事はな
かなか了解していただけ
なからう。

国際女医会日本連絡書記が
報告を書かれると思うが、ロ
ンドンの本部から（会長が英
国人なので）の消息も来る
し、他の加盟国からも会員自
身の研究発表に就いてのパン
フレット等が送られて来る。
今月に入つてからも、スイス
とフィリッピンの学究的立場

にいる女医からその人自身の新しい研究の成果を英文の立
派なパンフレットにして空送されて来た。実はこれ等の國
の女医に対しては内心あまり尊敬もしていなかつたのだ。

こうして海外の仲間から、たよりをされると吾々は「お
前はどうかだ」「何をしているのだ」と常に学問を強いられ
るようである。この頃ではすっかり開業医になり切つた筈
の私自身でさえパンフレットを見ると、あとに一沫の淋し

さが頭にのこる。これが得がたいものなのであらう。この
刺戟に対して吾々が進歩しなくてはいけないのだと思ふ。
そうではあるまいか。

次の第九回国際女医会総会は、
一九六二年クリスマス週間か又は

一九六三年正月にフィリッピンのマニラで開かれる。暮
に押つまつた変な時期だと思われ得るであらうが、フィリッ
ピンはこの頃が一番すべての点でよい時期らしい、気候も
人氣も。この総会には日本からは二十人出席出来る権利が
あるので成るべく全会員の中から希望者をつのりこの権利
を生かしていただきたい。英語のペテランが一人居れば、
其他の人は日常の生活にこと欠かない程度の英語であとは
心臓がものを言う。費用は飛行機が往復で十五、六万円だ
からせいたくしなければ三十万円もあれば足りると思ふ。
ぜひ今から心がけてヘソクリの用意をしていただきたい。

総会の演題は老年婦人に関する問題で内諸の話だが全部
の人が演説をするわけではないから二、三の方以外はそ
方の心配はしないでよいと思ふ。前回の経験では、フィリ
ッピンは通訳も許可した。

私ははじめて然も僅かの期間の海外旅行をしたからと言
つて、欧州旅行談を語る資格はないが、四千人近い会員の
中には、お金を貯めてもて余して苦勞しておられる方もあ

るうし、また寄る年波も忘れて汲々とお金を貯える事に没頭され、しかもついに疲れはてて一生を終る方もあるかも知れないと思う。そんな方はぜひ「外国を見ていらつしやいませ」「見聞を博めていらつしやい。気が大きくなつて気が若くなりませ」。「一層勿く気が出て決して損ではありません。」と声を大にして申上げたい。私自身はもつと年をとらない中に行けば一層面白かつたであろうと思つた。

飛行機の旅行は少しの不安も苦痛もない。国際語の英語が不得手なら、日本の着物を着て行けば何処の国でも手を取るように親切にしてくれる。同じ英語でもその国々でまるで発音が違うので、「お前は辞書をもつていたら、そのお前の言う字を指してごらん」といわれたこともある。無論私の英語がまづいからであるが。

ヨーロッパは、北米もそうらしいが、気候が日本と違つて湿気がなくてサバサバしているので、私のように時々喘息やリウマチスが出る体質でも一度も咳も出ないし、足の痛むようなこともなく、全く無病息災でたのしく元気に歩き通した。血圧も低い方じやなかつたが、帰国後は却つて安定して一四〇より昇らなくなつた。クランケをはなれての旅行が何よりの休養になつた事もうれしい。

服装は簡単でいい。日本の着物なら何でも何処でも「オ

る日本式なナイトクラブなどはない。これは何処の国でもそうである。

大使館も領事館も、前以つて連絡をしておけば親切にどんな相談にものり、世話もしてくれる。

広い世界で種々な人種に逢い、言葉や習慣がちがつていても、人情はみな同じ、心と心はかならず通じるものであることも経験した。日本を離れて、はじめて知る日本の好さも知つた。

終りに皆さんにお話したいことは外国人は長命であるという事である。ロンドンの会議を終えてから、安田さんと私は彼のリード女史に引卒されてアメリカの女医さん二十人余りとヨーロッパめぐりをした。楽しい然も経済的な旅行であつた。二行の中に私より少々年をとつ方が三人いた。外国婦人は割合にふけて見えるという私の早合点で大体六十歳位かと思つて、恐縮しながら（年を開かれるのを嫌うので）聞いたら驚いた事に九十五、八十五、八十二歳であつた。本当に私は啞然とした。三人とも元気でよくしゃべりよく食べ、よくビールを飲み、そしてよく歌を唄う。無論第一線を退いて年金を二、三年分ためては海外旅行をす

「ワンダフル」だし、洋装は又外国人は実に気軽に着ている。日本なら冬は毛のスーツで、春はウールを着て、とか初夏はこれ、真夏はこんなもの等と、実にうるさいルールにしばられたようで折角洋装で出ようと思つても人並の着るものがないから等と思うものだが、外人はいつでも自分の気分と都合で真夏でも毛のスーツを着たり、毛糸のカーディガンやひつかけたり、ウールも着、オーガンジーや、レースのワンピースも着るといふ風で、去年ロンドンでの総会でも会議中は多種多様な服装が一堂に会している。私は帰国してからおしやれをするのがバカバカしくなつた。ホテルも簡素でよい。女中や番頭がペコペコつきまともないし、「外国とチップ」というがあべこべに日本人ほどチップを出す国民はないと外人はいつている。食事はホテルの食堂で何でも好きなものを食べるか、外で食べてもよい。

見物は何処の国でも遊覧バスが完備していて見物、見物は、大学、病院、美術館からナイトクラブにいたるまで安価にバスで行かれる。

ナイトクラブはまた日本と全く異つてみな婦人同伴で行き、一人で行く人はない。歌を聞き、唄い、踊りを見、又踊りを踊る老人夫婦も、若い一組も楽しく気持よく、簡単な飲み物をのみ時間を過ごす。決して妖し気な女の大勢がある。

私は繰りかえしておすすめしたい。日本女医会の方々よ機会ある毎に一人でも多く海外に出かけられる事をおすすめする。そして自分達が進歩するだけでなく、女医は心を合せて人々の肉体和心をも癒す事に努力したいと念願する。

(五月子供の日)

日本女医会費をお納め下さい。

会誌の中に明細書 日本女医会費 三〇〇円を同封いたしました。

振替用紙御利用の上至急御送金下さいませすようお願いいたします。(会計係)

医学の進歩について

理事 定方 亀代

この頃の医学の進歩につき私共の女医会も一歩もおくれないようにいたしましょう。世界的な医学の進歩を考えますと、日本も医学の進歩においては、国際的に其の位置をしめていくようです。外国の人々がよく日本の医学はすぐれているとほめて下さいますが、私共はゆだねてはいけないと思います。

先日ある男子の院長先生が若いこの頃卒業した先生等に話しておられましたが、それはこの頃の医学の進歩についてでありました。このごろは医学が急速に進んでいるから油断してはいけない。二、三年前の医学はもう古い、あなた方はこの新しい医学を勉強して来たのだから常に進んだ医学を研究してなお進歩してほしいといわれました。私は非常に嬉しいと思つて聞きました。同時に私共は常に勉強し研究を続けなければならないと感じました。この頃出ている新薬の使用法でも、疾患治療的目的的、又は予防医学的に用いられるにも非常な研究を要します。世界に認められ、よい功績をあげられた米国のカオイ教授が、的中の、的劑と云ふ事を教えて下さいました。

疾患によつて多数の薬の中から最適した一剤を与えるようにといわれました。現代の進歩に以前のよい事加えて、なおよいものにいたしましょう。

或る外国の医師が、日本は医科学的に非常にすすんでいるけれども、臨床学的には少しそうでないようであると、日本の病院を多く見学された後に申されました。私共は日本が臨床医学的にも各国にまけないように進んだよい臨床医学の仕事をして国際的に貢献するように助け合しましょう。男女の別なく、国籍を考えずに、世界の良き一医師として現代の医の進歩に伴ない、識実な良い仕事をして国際的に貢献いたしましょう。

近況報告とこれからの希望

理事 大貫 セツ

編集部から往復はがき到着によりほんの思い出したことをかいて御返事いたします。

本会吉岡会長は目下御静養中なれど時々会議の折は至誠会、鶴風会、加多乃会の各副会長先生が実に熱心に寛大なる議事をすゝめられ本会役員会はなごやかに発展しつつあります。又ほかの諸先生方も何事にも新式に活潑

により議案を發言せられ誠に愉快に進行されています。

戦後は火が消えた様にさびしかつた本会、解散同様であつた本会も皆様のおかげで再発足する準備が陰に陽にすゝめられ遂に数年前から最新式に復活し立派な雑誌第二号迄発行せられ今や第三号編集の準備をせられつつあります。編集部の皆様は多忙のことゝ存じます。又正式に本会が国際女医会に加入を認められたこと等も進歩したものであります。これも偏々に数名の先生が自費で国際女医会に、汎太平洋会議等に御出席になられた、その結果であります。これ等のことを戦前に比較すると全く隔世の感があります。吾々会員は心から感謝せねばなりません。又本会を強く大きく育てるために愛してゆかねばなりません。私共は長い年月本会のあり方について只々眺めて居たのでありますが永く世の中に生存して色々とよき出来事を耳にするだけでも生き甲斐を感じて居ます。

さて最近の珍談としては四月一日第十五回日本医学会総会が東京体育館にて、天皇、皇后両陛下を迎えて開会式を行い、花の都は日本最大の医学祭典式場にされたのであります。吾々は予定通り出席の光栄を得、席も予約通り充分にとつてあり安心しました。医海事報の記事に曰く、「右側は女医会員で定刻前から立錐の余地ない満員であつた」と、かくの如く全国から御上京の女医先生

の数が多くなつた。

このよき折を利用して、せめて皆様をひとり残らずどこかに集合してもらつて一大宴会をしたならばと、……これはその日の感想でありました。横を見ても後を向いてもあちこちに点々と存じあげて居るなつかしい顔、顔、顔。

かくしてプログラムの順序に次々と各要件を終り正午閉会。場内あふるゝ様な男女の先生方はいつしかちり／＼／＼／＼、あとから肩をたふかれふり返ると何と一年ぶりに御目にかかれたM先生でした。近況報告おわり。本会への希望

- 一、会費増加の件（一年に五〇円又は百円位）
- 二、女医史編集希望
- 三、女医会雑誌、資本なしで出来る方法を考えること

以上

評議員（徳島県支部） 藤田 小冬

木々の若緑も目にしみる様なすがすがしい頃となりました。貴会益々御隆盛の段慶賀にたえません。万国女医会に加入した日本女医会としてはさぞかし御多忙、御心労の多い事と推察いたします。私共の代表として、世界の状況に遅れない様に、緊張活躍せられる幹部皆様方

の御苦労の程、誠に頭の下る思いがいたします。遠く離れた田舎の空から、はるかに感謝の念をさぐげる次第でございます。当徳島県としては昨年九月に、支部結成式を挙げましたが、支部結成に到る迄の経過中、貴会幹部の、事務処理につき今少し整然としていただきたいと思います。余りの苦言でございます。何卒私の微衷御推察下さいまして平に御海容下さいませ。終にのぞみ日本女医会の発展を祈念して筆を擱きます。

評議員 (石川県支部) 荒井 梅子

北の国にも春の陽ざしが満ちあふれ、新鮮な緑にすべてのものが、よみがえつた感じがいたします。石川県支部が結成されましたより二年目を迎えました今日、いよいよ団結を固めまして、大いに親睦を計つて参りたいと念願いたしました。私達はこの会によつて、より視野を広め、より教育され、より磨かれるための機会を、与えられ心から感謝にたえません。日本女医会の一層の御発展をお祈り致します。

評議員 (東京都豊島区) 北沢 あさを

日本女医会の発足第三年の当五月五日支部会を開き

以上、その加入団体としての日本女医会というものはやはりあつてよいものであらうということが、自分自身に納得されたのは私が学校を卒業してから、しばらく経つてからであつた。今の学校をでたばかりの若い方々の間にも、こうした自問自答をもたれる方々も多いのではないかと考えている。日本女医会は、国際女医会の一員として、活動していくべきであると思う。然し同時に国内に於ては、日本女医の団体として対社会間に、活動すべきである。

評議員 (福井県支部) 中村 しゆう

当地も昨秋、川那部、大村、両先生を御迎えして遅ればせながら支部を結成いたし、皆様の御仲間入りをさせていただきました。片田舎におりますと日本全体の、又は世界の女医の団結の動きというものに、うとくならずを学ばせていただきたいと期待しております。そして会の一員として色々の事に協力できるようにになりたいものと念願しております。尚機会が有りましたら中央から私共の方へも御立寄り下さいまして、種々くわしい様子も御話しねがいたいものと期待しております。

ろいろ話し合う事にいたしております。私個人としての希望は、年々増加の女医の為の集会所を持ちたい事です。

- (1) 日本女医会館の建設
- (2) 日本女医会連盟の結成
- (3) 日本女医会への関心をよぶにはいかにすべきか

幹部諸先生の御指導を仰ぎたいものでございます。

評議員 (愛媛県支部) 片山 キヨ子

日本女医会も日々成長して行かれる御様子を喜しく存じます。当方支部も、親しく会員と寄合度く存しながら勤務の都合や、昨年末から少々健康も思うに任せず、心ながら無為に過ぎてしまいました。尚、此三月末にて、国鉄西保健所を引退いたし、目下定住の家を物色来月中旬にはそちらへ移りたく存じて居ります。目下縁故の家に仮住に居ります。

年若いれば何となく、世間を遠ざかりたいという感じ。で昨今心も千々と申す所で有ります。

理事 三神 美和

医学会というものは、男女の別なく医者であればよいのであるから、特別に女医会というものゝ存在理由はないのではないか、いや然し、万国女医会という団体がある

評議員 (千葉県支部) 花岡 常子

千葉県支部は一昨年九月、竹内先生、龍先生の御出席を願ひ発会式をあげました。其の後お誘ひ申しました。幸い鶴風会、至誠会、共に約三分の一づつに相当する入会者でございました。支部としても何か意義ある会をひらき、発展させたく存じておりますが本部よりも会員に関心をもたせ各会員をひきつけるような仕事のプランなど希望いたします。発会に際しては、県医師会、又は県の衛生部あたりと関連のあるものをも考えました。が、とりあえず発展性のあるものと思ひ、県の健康相談所(結核予防会事務所)内に事務所をおいていた。ことにしました。

何分よろしく御指導下さいませ。

評議員 (兵庫県支部) 千島 チエコ

私達の生立ちは昭和二十六年一月に数人の発案によつて神戸市に住んでいられる方の親睦を目的として神戸女医会が生まれました。当時四十三名の会員があり第一回の会長は至誠会の大西寿子先生にお願いいたしました。其の後引続き毎年総会とレクリエーションを作り、なご

やかな会を催しています。昨年は二台のバスで家族同伴で京都見物をいたし総会では講師を招き有意義なお話をうかがいました。会長と評議員は二年毎に改選されます。昨年日本女医会の支部として引続き発展いたしました。が、会の充実と会員の増加に関しては至誠会の久保内延技先生の御尽力の賜がございました。

会員は神戸市内 九二名、他市郡部 七十名で各会員の学校別は

濟生舎 一名、日本医専 一名、至誠会 八六名、加多乃会 六四名、鶴風会 十四名、京城医専 一名、京府大 一名、福島医専 一名、大阪大学附属医専一名、(不明もあり)

診療科目別は

産婦人科	市内 二三名	他市郡部 十九名	合計 四二名
内科	二三名	三〇名	五三名
小児科	五名	六名	十一名
眼科	十七名	十二名	二九名
耳鼻科	五名	七名	十二名
外科	二名	二名	四名
神経科	一名	〇名	一名

保健所勤務 六名
 県庁 一名
 合計 百六十二名

最近オープンシステムが疎ましくいわれておりますが日本女医会も東京で病院をテストされて、各大都市へ進出する事は非常に心強いプランと考えております。何卒素晴らしい事業をして頂く様切にお願いいたします。

日本女医会

埼玉支部総会の記

荒井糸子

桜花五分咲きの三月十五日、熊谷市に開催各校出身者三十三名出席しました。

一、女医会総会

二、コバルト六〇遠隔照射実地見学及聴講

(於藤間病院 講師 藤間利行先生、藤間弘行先生)

三、学術映画、心臓手術其他(武田薬品提供)

四、欧米視察談及びカラーフィルム(丸山先生)

コバルト装置については先生の深奥な御研究並びに、科

学の大飛躍に魅せられ、別世界に学ぶ心地。丸山先生の御話とフィルムに和やかに楽しくくつろぐところへ佐藤大藏大臣より一席賜り、益々賑やかに、やがて席を改め

美奴並ぶ中



優秀な学

術知識、海外状況、並びに国内の税制状況等を知り、本会の運営に地元男女医師会員の御協力を得た事、又遠隔地からも多数御出席下さった会員に深く感謝致します。

当日出席者(敬称略 順不同)

- 石川千代 出口雪枝 佐々木道子
- 東より 北浜博子 岩崎綾子
- 仁羅山紀久子 山崎寿枝 林さく代
- 木村まさ子 辻富美 新谷芳子
- 政川ゆき 野崎田鶴子 加茂雅子
- 小林洋子 豊岡寛子 柳沢静
- 藤村ナミ 島田春江 津島まさ
- 三上とき 成田利子 萩野京子
- 柳田郁子 宮崎雅枝 伊藤もと
- 河村早苗 大升初代 渡辺なよ
- 山下安子 齊藤さだ子 荒井糸子

(前列中央 龍知恵子)

(昭和三十四年四月記)



理事 (東京都江東区支部) 西尾 範子

古ぼけた頭脳に鞭を打って此処二年有余、母校東邦大学の研究室に入門致しましたので、役員会にも欠席勝ちにて申しわけなく存じます。日本女医学会も益々成長して行くのを見て喜んで居ります。少し資金でも増えたら何処か中央に事務所でも建設したら、足場もよし皆さんも都合がよいと存じます。早くその時期の到来を期待し会の発展を祈ります。

評議員 (島根県支部) 奥名 竜子

本部の皆様方、御元気で御活躍の事とおよろこび申し上げます。私の島根支部会員の諸先生方もそれ〴〵お元気で御開業に、御勤務に、御家庭にお過しになつて居られます。

島根支部会としては何もまとまつてしごととしては居りません。本部の皆様方の御活動の状況を知り度く存じます。当地方だけでも一度親睦会でも開きたいと思ひ乍ら未だ実現しかねて居る有様でございます。

評議員 (広島県支部) 土肥 幸枝

知事選、県議選が漸く終り、市議選が最後の週を迎え

ました。結果的に見て、大衆の票に現はれたものは、やはり実力と、たゆまぬ努力を払はれた所へ向けられた様に思いますが、婦人立候補者が、案外に振はなかつた事を願ひて、もはや婦人の立候補者は、物珍らしい時でなく、婦人は婦人へという同情的な考え方より離脱して、男女同権が確立されて、実力者へという動向と、もう一つ又従来に慣性に逆戻りの現れではないかと考えられます。どちらにしても、今、折角ここまでこぎつけた婦人の地位を根強いものにするためには選挙期のみでなく、平素の行為と努力が数倍の実力となつて現れ、婦人のため、のみの立候補でなく、国民と正義のための実力者として、努力されねばならぬと思ひます。吾々は之からがけわしい道です。第一線の女性として、教養と、知性の指導者としてより深く、より高く勉強せねばならぬ事を感じます。次の選挙には、之等のために努力される婦人立候補者へ、万全の協力を祈ります。

評議員 (東京都千代田区支部)

仁尾 千枝子

抱負等と云う大げさなものではありませんが、思いつくまま二、三書きつらねて見ました。

一、卒業学校の派閥等に偏向する事なく(そんな事は

あるはずありませんが) 会員一人一人が、平等の権利と義務とを持つた集りでありたい。

二、日本女医学会の名に於て、社会的な、啓蒙運動を推進すべく、色々の具体案を練つていただきたい。

三、世界各国の女医学会との間にもつと親密な交流を持ちたい。

四、月刊とまでゆかなくても、せめて、春夏秋冬の四季位に、季刊、パンフレットを発行していただきたい。

五、社会保障問題、或は殊に医療制度の問題等についての、我々の代表者たるべき人を、日本女医学会から出来るだけ多く為政壇上に送りだしたい。

日本女医学会にのぞむ

理事 (大阪支部) 大原 一 枝

会員が全国に分散しているので、どうしても連絡が不充分になり、従つて関心がうすくなる。会誌の発行はこの点を好転させる最善の手段である。立派な会誌が出来るだけ頻りに発行出来る様な状態に早くなる様、会員各位の御協力をお願いする。因みに、アメリカ女医学会誌は

月刊、約四十頁、學術欄、会報、雑報を含み、会費年十ドル。

理事 小 俣 喜久子

戦後各職場に女子の進出がめざましいとはよく耳にする言葉であるが、果してそうであろうか、男女同権は果して文字通りうけとつてよいのであるうか、お互に胸に手をあて、考へて見る必要があるうか。

有名大学の上位入学者は女子であり医師国家試験でも女子が上位に多いと云われるのは真偽は確かでないにしても優位にあることは真実である。以上のような事からも能力に於て男子に劣つてゐるとは考えられない。然し仕事にたずさわつて見ると何かにつけてひげめを感じるのは私だけであろうか。

現在日本医師会の力は相当に強く政界にも大きな発言力を持つようになつたことは誠に喜ばしいことである。その中であつて日本女医学会の力をよく反省して見る必要を考へる。

由来女性にはお互の間に親友が出来難いことを指適されてはいるが何かそう云う一面があるように思われる。それはお互が他人の人格を認め、価値をみとめる気持に欠くところがあつて、お互が親しくなり得ないのではな

ろうか。日本女医会が大きく成長するためにはお互が他人の喜びと一緒に喜び悲しみを一緒に悲しむような気持になりたい。そしてお互が団結を強くして行くことが何より大切なことではないだろうか。次に日本女医会の社会性を強調したい。只個人個人の小さい殻にとじこもつていては社会から相手にされないようになる。社会の動きに遅れてしまつてはいけないと思う。日本女医会としてPRにもつと積極的に務めなければならぬのではなからうか。学会に於ても実社会に於ても相当な地歩を築いている方々、築きつゝある方々が相当に多くなりつゝあることは大きな喜びであるがそれに安心は出来ないのであつて、日本女医会がお互に強い団結の下にバックアップし、もりたてゝ行き後進の育成に大いに努力して行くことが現下の日本女医会の一つのあり方ではないであろうか。私は微力ながら以上の気持を胸にしつかり持ちつづけて日本女医会の発展のためにつとめたいと思う。

偶

感

評議員（高知県支部） 小 出 つる子

毎朝夕、患者に接し、カルテに記入し、試薬を滴し、あ

わただしく過して居りますと、事新らしい息抜きがほしいといつも考えます。その息抜きと、又次へのエネルギーの根源になるものとして趣味を持つこともよろしいのですが、私共中央をはなれて住むものにとつて何よりのたのしみは、同じような考え、そして同じような日々の生活をしている者が集つて苦心談を語りグチを云い、新知識を学会に出席した人に聞くといつたことが、どれほど大きい息抜きとなるかわかりません。私達の高知県では宮地支部長の下に、皆氣のよくあつた会員が、事につけ、遊ぼう会、食べよう会、学ぼう会などと寄りく、何かプラスになることを得る集いをもつて居ります。こんな気持をおしひろげて女医会というものは、何か得る処があり、親しめる会だといふふうな発展したいものです。

想
う
こ
と

理事 大村 ひさえ

「相手は医者だ、団結力がないから安心だ。こちらの思う通りになるから……。」とある時、あるところで、ある厚生官僚が口走つたということを聞いた。

年中行事のように春期に、越年にと団結力にものをいわせて、否応なしに目的の線までは、必ず引きあげて行く人達に比べて、口惜しいけれど私達は何んのだらしないことかと思う。

死活の問題だ。死亡の有事などと念仏を唱えながらいざ旗を挙げようとする参加者の出足がにぶつたり、ストを決行しようとする櫛の歯をひくように脱けていつたりなどして、結局得たものは世の嘲笑であつた。

顧みて例外はあるにしても、独り善がりやで、一国一抽のあるじ顔におさまりかえり、さざえのように堅い壁の扉を巡らし、隣りとのつきあいさえ、満足に出来ないようなのが吾々医者どもである。

自由経済の中で医者だけが点数という統制の中にとり残され、その点数についての意見さえもロクに世間にはとりあげられない現状である。認識が足りないからだ。団結心がないからだと思ふ。

世の中から弱い者扱いを受け、意気地なしにされている、その医者仲間うちで、亦女医という立場は一層みじめである。これは吾々女医側にも大いに責任はあるが、しかし誠になさけない次第である。

所詮は螳螂の斧、長いものにはまかれろとあきらめていたのは昔の話。弱い者として、少数として、権利という楯

には勝がある。しかし権利を如何に主張するかは団結の力であり、またその使い方である。

こんな話がある。三人の勤務看護婦をもつていた医者がその看護婦の一人を解雇しようとした。ところが残り二人のうち一人が同情して二人で団体をつくり、雇主に対して解雇に対する団体交渉にきたという、まことにうその様な現代である。

この際私共は大いに反省しなければならぬのではないのか。今までの自分達の在り方について、私達もつとおほらかな心で、胸裡を開いて、出来る限りの誠意を以て、お互に話し合わねばならないと思う。それでこそ、はじめて間隙のない結合が出来るのではなからうか。

私共は弱いが故に最も強い団結が必要なのだ。そしてこの団結の力を立派に使いこなせる人が欲しい。今秋を期して実行に移されるであろう国民皆保険、国民の健康保持は私共医者の喜びと誇りとに拠つて遂行されなければならないのである。

それにはこの衝に当つてくれる私共の代表が、今直ぐに必要である。

代表を出すための今日の努力が、やがて来る私共の運命を大きく左右することを銘記せねばならない。

日本女医会会則

- 第一条 本会は日本女医会と名称し、日本女医を以つて組織する。但し、外国婦人で日本女医会に加入する場合、日本で医師の資格を得た者で出身校、同窓会長の紹介によつて入会する事が出来る。本会は会員各自の品性の向上、知識の進歩及び相互の親睦を計り、権利を擁護し協力一致社会に貢献し、人類の福祉を増進するを以つて目的とする。
- 第二条 本会は国際親善に寄与し、国際女医会等との連絡をはかるものとする。
- 第三条 この目的を貫徹するために定期の集会を開催し雑誌の発行等もする。
- 第四条 総会は一年一回開催するものとする。但し、時宜により臨時総会を開くこともある。総会は会員の四分の一以上の出席を以つて成立する。
- 第五項 会議に出席出来ない会員は予め通知された事項についてのみ書面を以つて票決することが出来る。委任状は総会の出席数を定めるには加算するが決議権はないものとする。
- 第六項 理事会は毎月一回之を開き、決議事項は出席人員の半数以上の同意によりて決するものとする。但し、臨時に開催することが出来る。
- 第七項 雑誌は日本女医会誌と名称し、本会の機関として一年一回以上発行し、会員に配布する。本会は本部を東京に置き、事務所を当分東京都新宿区市ヶ谷河田町拾九番地（至誠会本部）に置く。
- 第八項 本会は地方会員と連絡を計る為地方支部を置く。本会に左の役員を置く。
- 第九項 会長一名、副会長四名、常任理事及理事若干名。会長は総会に於て之を定める。副会長及び常任理事は選出母体の理事の互選による。
- 第十項 理事は各同窓会其の他より選出する。内記、理事は各同窓会より十五名ずつ選出する。但し、評議員は本部役員及び地方の正副支部長を以つて之に当てる。
- 第十一项 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は理事の一名が之を代理する。会長、副会長、評議員の任期は満三ヶ年とする。常任理事会及び理事会は本会の執行機関である。評議員会は総会に次ぐ決議機関で一年一回以上開催する。本会は評議員の三分の一以上の出席を以つて成立し、委任状を認める。
- 第十二項 本会の会費は一ヶ年金三百円とする。
- 第十三項 会員死亡の際は本会より相当の弔意を表するものとする。
- 第十四項 本会会則は総会において会員の決議によらなければ変更することが出来ない。以上

訃報

吉岡彌生会長死去 今一度び起つて頂ける日を、という全会員の祈願むなしく、吉岡会長は五月廿二日午後十時五十八分東京世田谷羽根木町一六三二の自宅で永眠されました。

御齡八十八才。葬儀は廿六日午後一時から二時まで青山斎場で行われます。

いま日本女医会の前途洋々たる発展途上に、突如かくも大きい指導的な星を失つたことは誠に残念ですが、吉岡彌生女史のお名前は、われわれ女医の草分け、生みの親としての功績にいつまでも輝くこととごさいます。

われわれは会長の開いた道、歩かれた功績を敷衍して、一層女医の実力と地位をたかめ社会人類に貢献すべく努力を続けたいと存じます。

ここにふかく哀悼の意を表し会長の御冥福をお祈り申し上げます。



刷り出しまぎわに会長死去の悲報まことに肅然とした気持で第三号を皆様のお手元にお送り致します。

末筆ながら全国から寄せられました皆様の原稿により、本号がまとまりました喜びを今後の発展の礎にしたいと存じます。どうもありがとうございます。ごさいます。

「日本女医会誌」通刊第百二十二号
昭和三十四年五月二十五日発行

定価 廿円

発行人 日本女医会

編集人 福田 幹

発行所 東京都新宿区河田町一九
至誠会本部内

印刷所 東京都中央区宝町二ノ七
秀峰印刷株式会社